

篠原 健吾 (SHINOHARA Kengo)

研究員

1995 年 福岡県北九州市 生まれ
2018 年 鹿児島大学農学部 生物環境学科 卒業
2020 年 鹿児島大学大学院農学研究科 生物環境学専攻 修了
2020 年 農研機構 農村工学研究部門
農地基盤工学研究領域 水田整備ユニット
2021 年 同部門 農地基盤情報研究領域 空間情報グループ



三味線と筆者：
歌い手とリズムを合わせるの
が苦手で、つい走ってしまう

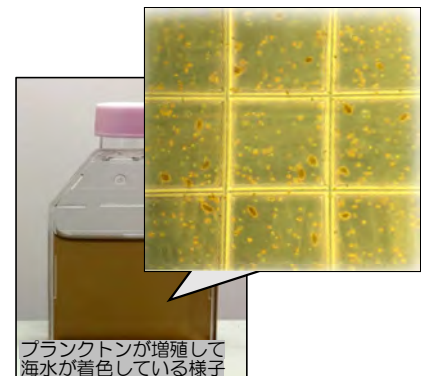
研究者の横顔

〈はじめに〉

みなさん、はじめまして。採用2年目の篠原健吾と申します。現在は大学時代の研究成果を論文にまとめつつ、研究テーマを模索しています。本稿では大学時代の研究について軽く紹介し、現在の研究生活、そして私生活について書かせていただきます。

〈研究について〉

大学では赤潮の研究をしていました。海水中に存在する植物プランクトンが大量増殖することによって（海水が赤く着色するので“赤潮”と呼ばれる）、水質悪化や漁業被害を引き起こします。赤潮は毎年決まって起こるわけではなく、気象条件やほかの生物が複雑に関係しているので予測は困難です。そこで赤潮の原因となるプランクトンを実験室で培養して増殖特性を調べていました。生物を相手にしているので、ちょっとしたミスで実験失敗になることが多く、試行錯誤を繰り返していました。でもそうやって格闘しているうちに、だんだんと知識や感覚が身についたような気がします。



プランクトンが増殖して
海水が着色している様子

そして現在は空間情報グループに所属し、土壌物理学に関する実験や勉強、ドローンによる写真撮影や三次元点群データ解析、GISソフトの練習などをおこないながら、今後の研究テーマを模索中です。どれも一筋縄ではいかず、一歩進んで二歩下がって、の繰り返しですが、そうやって身に付けていくのが性に合っているのかも。



ドローンと筆者

〈趣味は三味線〉

三味線との出会いは15年前の夏、麦茶を求めて親戚の家に遊びに行ったときでした。何に惹かれたのか、今はもう忘れてしまいましたが、「苦手な英語を勉強するなら習ってもいい」という理不尽な約束をしてまで三味線の門をくぐりました。高校卒業まで叔母のもとで民謡（盆踊りでよく流れている）を習い、大学進学後は邦楽部に入って地唄（お正月のイメージ）を練習しました。さらに部活外でも津軽三味線（速くてカッコいい）の教室に通っていました。一口に三味線と言っても、バチの大きさや演奏方法、楽譜の書き方などは演奏するジャンルによって異なり、それぞれに味があります。最近はなかなか弾く機会がないので、休日に職場でこっそり練習しようと企んでいます。